

取扱説明書	PA-A246A-LA <PA-31CS-9LA>	1	4	8	5	5	3	2	13011
	PA-A246A-RA <PA-31CS-9RA>	1	4	8	3	5	3	3	

ガステーブル

PA-A246A-LA
(機器コード 1485532)
PA-A246A-RA
(機器コード 1483533)



あげルッパ

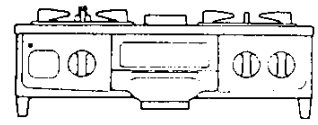
取扱説明書

このたびはガステーブルをお求めいただきまして、ありがとうございます。

TOKYO GAS

保証書付

型式名: PA-31CS-9LA
PA-31CS-9RA



- 正しく安全にお使いいただくために、ご使用前にこの「取扱説明書」を必ず最初から順番にお読みいただき、よく理解して下さるようお願いいたします。また、この「取扱説明書」をいつでもすぐに取り出せるところに大切に保管しておいてください。
- この「取扱説明書」に書かれている内容以外ではご使用にならないでください。

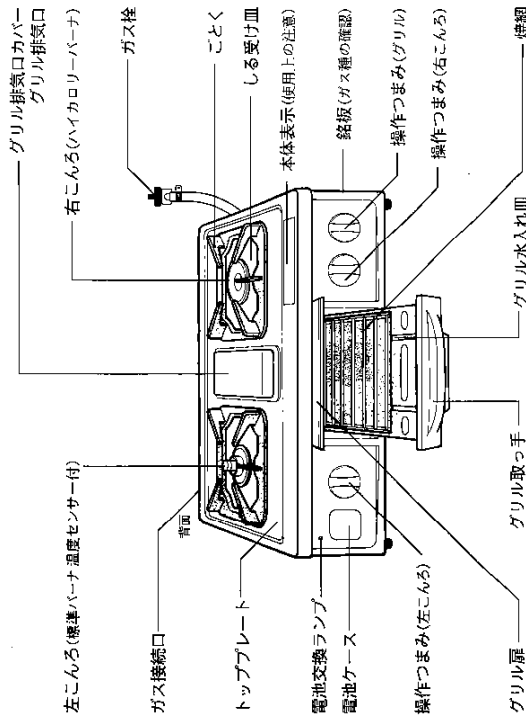
取扱説明書を紛失された場合は裏表紙に記載のお近くの東京ガスまでお問い合わせください。

各部のなまえ……………1	お 使 い の 前 に
必ずお守りください……………2	
設置について……………6	
こんろの使いかた……………9	使 い か た
グリルの使いかた……………14	
点検とお手入れ……………16	お 手 入 れ と 点 検
故障かな?と思ったら……………20	故 障 ?
保管とアフターサービス……………21	サ ー ビ ス 1
仕様……………21	
保証書……………22	



各部のなまえ

取扱説明書中の図はPA-A246A-LAのご紹介となっております。
PA-A246A-RAはハイカロリバーナと標準バーナが左右入れ替わります。



特長1 天ぷら油過熱防止機能

標準バーナには天ぷら油の過熱を防止するために温度センサーが付いています。
温度センサーが約250℃になると自動的にガスを止めます。

特長2 快転トビラのぐるりんば

グリル水入れ皿を引き出すと、グリル扉はぐるりと上方へ回転しながら開きます。
熱いグリル扉がしゃまにならずにお魚を裏返せます。

取扱説明書

PA-A246A-LA <PA-31CS-9LA>
PA-A246A-RA <PA-31CS-9RA>

1 4 8
1 4 8

5 5 3 2
3 5 3 3

1 30 21

必ずお守りください

(安全に正しくお使いいただくために)

製品を正しくお使いいただくためや、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにこの取扱説明書および製品への表示では、いろいろな絵表示をしています。その表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

△ 危険	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定されます。
△ 警告	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合が想定されます。
△ 注意	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみが発生が想定される場合が想定されます。

絵表示について次のような意味があります。

- 一時的な禁止
- 分解禁止
- 火気禁止
- 接触禁止
- 必ず行う

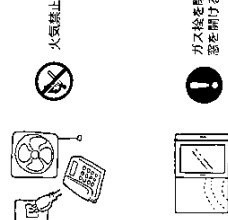
必ずお守りください
絵表示の意味

△ 危険

■ ガス漏れ時の処置

ガス漏れに気付いたときは、①～③の処置が終わるまでの間、絶対に火を付けたリ、電気器具(換気扇その他)のスイッチの入・切や電源プラグの抜き差しおよび周辺の電話を使用しない
→炎や火花で引火し爆発事故を起こすことがあります。

- ①すぐにごガス栓をしめる
- ②窓や戸をあける
- ③お買い上げの販売店か専売ガスまで連絡する
(周辺の電話は使用しない)



火気禁止



ガス栓を閉め
窓を開ける

必ずお守りください

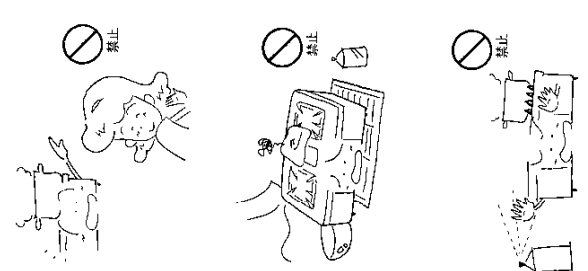
△警告

■使用ガスについて
ご家庭のガスの種類と機器の銘板(右側に貼付け)に表示されているガスの種類が合っているか確かめる合っていないときは使用しない。
*転居時にも必ず確認してください。
→ガスが合っていないままご使用になると、火災や不完全燃焼、やけどなどの原因になります。

型式名 都市ガス用
12A 13A 13A 13A 13A
製造年・月・日 製造番号・672


この機器は都市ガス12A・13A用です。

■火災予防
火をつけたまま機器から絶対にはなれない。
→特に揚げものときは火災のおそれがあります。
機器の周囲に可燃物(カーテン、新聞紙、紙袋など)や引火物(スプレー缶など)を置かない、近づけない。
*機器の下に新聞紙やビニールシートなどの可燃物を敷かないでください。
→火災の原因になります。
スプレー缶の場合は熱でスプレー缶の圧力が上がり爆発するおそれがあります。
グリル使用中、グリル排気口の上にタオル、ふきんなどをのせない。
→火災や不完全燃焼の原因になります。
機器の周囲ではガソリン、ベンジン、スプレーなど引火のおそれのあるものを使用しない。
→火災の原因になります。




△警告

■異常時の処置
①異常な燃焼、臭気、異常者が感じられた場合は、消火操作してガス栓を閉め、「故障かな?と悪ったよ」(20ページ)に従う。
②地震、火災などの緊急の際は、自分の身の安全を確かめてから、あわてずに消火操作する。

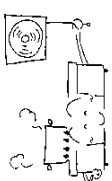


△注意

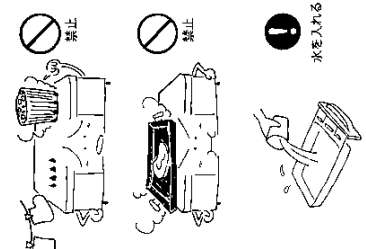
■ガス事故防止
ゴム管はガス用ゴム管(検査合格またはJISマーク入り)を使い、古い(ひび割れ、さし込み口のゆるい)ゴム管やビニール管は使わない。
→ガス漏れの原因になります。
使用後は消火を確かめ、外出・就寝時にはガス栓を閉める。
特にグリルは消し忘れをしやすいので機器から離れるときは必ず消火を確かめてください。



■換気について
閉めきった部屋で長時間使用しない。
使用中は窓を開けるか換気扇を回す。
→一酸化炭素中毒の原因になります。



■用途について
調理以外の用途には使わない。
→過熱・異常燃焼による故障や火災の原因になります。
こんろを覆うような大きな鉄板類やなべは使わない。
→不完全燃焼や機器の異常過熱の原因になります。
なべの大きさにあつた火力で使う。
→なべ底よりあふれた姿によりなべの取手が跡留するおそれがあります。
なべはごとの中央に安定よくのせる。
→不安定ななべはやけどをさせるおそれがあります。
グリル使用時はグリル水入れ皿に必ず水を入れ、水以外のものは入れない。
グリル使用後は必ずお手入れする。
→魚や肉から出た脂がたまり、使用中に燃えて火災の原因になります。また、グリル水入れ皿を出し入れする際に重く感じたり、ホーローを傷めることもあります。

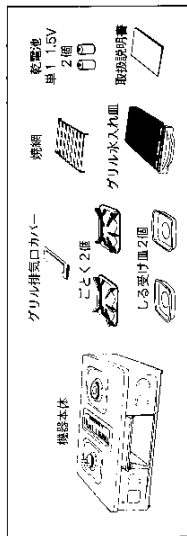


必ずお守りください

設置について

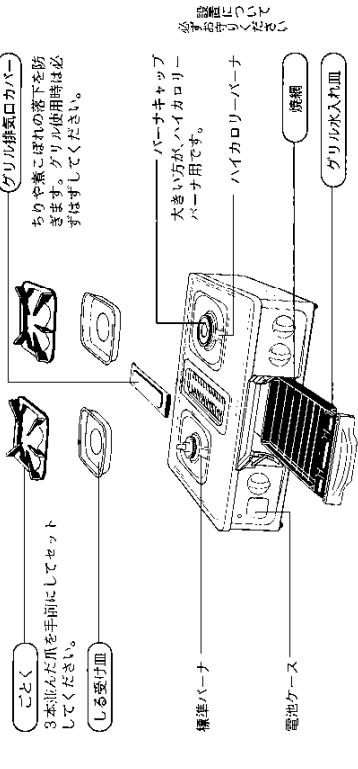
1 部品のセット

- ①箱から機器を取り出し、あて紙や梱包部材やテープを取り除く
- ②同梱部品の確認をする

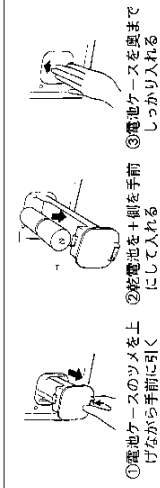


③各部品をセットする

PA-A246A-RAはハイカロリーバーナーと標準バーナーが左右入れ替わります。



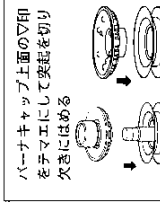
乾電池のセット



乾電池は新しいものと古いもの、または違う種類のものを入れておくことは、寿命が短くなり、乾電池が漏れ出すことがあります。

乾電池ケースの取りはずしは... 電池ケースを止まるところまで引き出し、持ち上げて引き出す

バーナーキャップのセット



バーナーキャップの突起を乾燥機の穴に合わせる。乾燥機を回して突起が奥まで入るまで回す。

△注意
吹き・傷まないようにセットする
→不完全燃焼や火災の原因になります。

必ずお守りください

△注意

- やけどに注意
使用中や使用直後は操作部(つまみ・グリル取っ手)以外には触らない。
→機器本体とその周辺および調理器具が熱くなるため、やけどをすることがあります。
*特に小さいお子様がいる家庭では注意してください。
使用中・使用直後は機器を移動させない。
→こたえの上の調理物などが倒れてやけどをすることがあります。

- 点火爆発時はバーナー付近に顔を近づけ過ぎない。
→熱や炎をやけどをすることがあります。
- 使用中はバーナー付近に触れないように注意する。
→衣類に炎が移ったりする場合があります。
- この機器の点火装置以外の方法では点火しない。
→やけどをすることがあります。
- グリル使用中はグリル排気口に手や顔を近づけない。
→高温の排気熱が出てくるため、やけどや取っ手が破損するおそれがあります。
- グリル庫内に食品層やふきんなどがないようにする。
→取り除く際はケガをしないように注意してください。
→使用中に燃えることがあります。
- 使用中・使用直後はグリル水入れ皿を勢いよく引き出さない。
→持ち運ぶときは中の水がこぼれないように注意する。
→水が高温になっているためやけどをすることがあります。

- 補助具について
補助具はこの機器用の付属品あるいは指定以外のものは使わない。
しる受け皿の上に市販のアルミ箔製のしる受け皿のせない。
→異常燃焼のおそれがあります。

おねがい
この機器は家庭用ですので業務用にお使いになると重く寿命が縮まります。

必ずお守りください

PA-A246A-LA <PA-31CS-9LA>
PA-A246A-RA <PA-31CS-9RA>

1 4 8 5 5 3 2
1 4 8 3 5 3 3 1 30 51

5 接続のしかた

△注意

- 巻き足しやニスを分断は絶対にしない
- 折れ、ねじれ、引張りなどないように機器の上や下を通さない
- 他の蒸気などの高温部に触れない

→ 正しく接続されないとガス漏れや火災の原因になります。

禁止

- ニス分断

ゴム管接続の場合

用意するもの：φ9.5mmガス用ゴム管(新品)、1本ゴム管止める個
* ゴム管は、ガスソフトコードなどのガス用ゴム管(検査合格またはJISマークの入っているもの)を使用してください。

① ゴム管を機器に貼らないように適切な巻き方に切る
② 両方のゴム管口の赤い線までゴム管を差し込みゴム管止めを止める
③ ガス袋を開け接続部からガスの臭いがしないことを確かめ、ガス袋を開ける

ガス袋開
赤い線
ゴム管止め
機器側

ガスコンセント接続の場合(ガスコードは13A専用です。)

ガスコンセントとは、つまみはないガス袋のことで、ソケットを差し込むと自動的にガス袋が開き、抜くと閉まります。

機器側の接続

① まず、別売の器具用プラグをのゴム管口に差し込み、器具用ソケットを器具用プラグに「カチッ」と音がするまで差し込む
詳しくは、別売の器具用プラグ梱包写紙の裏面に記載してある取扱説明書に従ってください。

ガス検測の接続

● 取り付けかた
① フタの右端を押し、フタを開ける
② ガス検測ソケットをガスコンセントに「カチッ」と音がするまで差し込む

● 取りはずしかた
フタを押すとソケットがはずれます。

ガスコンセント
ソケット
機器側
ガス袋側
器具用プラグ(別売)
器具用ソケット
ゴム管口
①
②
● 取りはずしかた
フタを押すとソケットがはずれます。

設置について

2 ガス種の確認

- ① ご家庭のガスの種類と機器の取扱に示されているガスの種類が合っているか確かめる
- ② 合っていない場合は設置をやめて、お買い上げの販売店か東京ガスまで連絡する

3 設置場所

一酸化炭素中毒や火災、やけどの原因となりますので正しく設置してください。

△警告 下記の条件を満たしている場所をお選びください。

- 換気が良い
- 周囲に可燃物がない
- 水平を安定している
- 風が吹き込まない
- 落下物の危険がない
- 水や熱がかからない

禁止

4 防火措置

各地の火災予防条例に準って防火措置を行ってください。

△警告 ステンレス板や薄いタイルなどの可燃性の壁に直接貼り付けた場合でも、下記①、②の防火措置を必ず行う
→ 伝熱により長年の間に可燃物が炭化し、火災になることがあります。
* 設置後に、機器の周囲の改装をする場合は設置基準をお守りください。

① 可燃物(壁、棚など)から十分離して設置する

* トッププレート上方の周囲

② ①の条件を満たせない場合は防熱板を取り付ける
別売の防熱板または金属以外の厚さ3mm以上の不燃材を図のように取り付けてください。
ご購入に際してはお近くの販売店までお問い合わせください。

● 前面・背面
● 側面・上方

トッププレート面が低いとき

こんろの使いかた

△注意
 ■やけどに注意
 グリル使用中、使用直後にグリル扉を開けた状態でこんろ操作をしない
 →熱くなったグリル扉に手が触れてやけどをさせるおそれがあります。

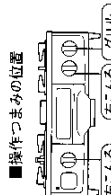


1 準備



- ①操作つまみが「止」の位置にあることを確かめる
- ②ガス栓を全開にする

2 点火

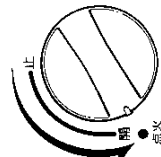


■操作つまみの位置
 *使用するバーナーの操作つまみを間違えないでください。

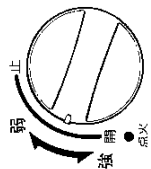
- ①操作つまみを「点火」の方向へいっぱい回し、そのまま数秒間保持する
- ②手を離しても点火していることを確認する

おねがい

- すべてに付いた水滴はふき取ってからごとくにのせてください。余分な熱が必要になるうえ、水滴がバーナーに落ちて目づまりし、点火不良になることもあります。
- なべをごとくにのせてから点火した方がより点火が確実になります。
- 手を離すと消火する場合は保持時間の不足です。操作つまみを戻して再度点火操作し、保持時間を長くしてください。
- 初めて使うときや、しばらく使わなかったときなど点火しにくい場合があります。ゴム管内に空気が入っているためです。繰り返し点火操作してください。

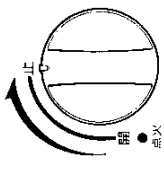


3 火力調節



- ①炎を見ながらつまみをゆっくりに回す
- 弱火でお使いのときは火が途中で消えていないか気を付けてください。
- 使用中もときどき燃焼を確認してください。

4 消火



- ①操作つまみを「止」の位置まで戻す
- 消火を確認してください。
- ②ガス栓を閉める

立消え安全装置が作動したときの処置方法

立消え安全装置とは風や煮こぼれなどで炎が消えたとき、自動的にガスを止める装置です。

消火に気付いたとき

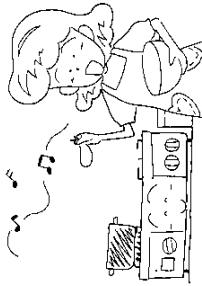
すぐに操作つまみを戻して消火状態にしてください。
 炎が消えてからガスが止まるまでしばらく時間がかかります。

再点火するとき

周囲にガスがなくなっているのを待ってから点火操作してください。



あけい 温度センサー付バーナー を使うとき



標準バーナーには
天ぷら油過熱防止機能が付いています。

天ぷら油は油の温度が非常に高くなると、直火火が入らなくても発火します。
天ぷら油過熱防止機能とは温度センサーが常になべ底の温度を監視し、天ぷら油が、過熱による発火をする前に自動的にガスを止める機能です。



マークが貼ってある方のバーナーです。

*ハイカロリバーナーにはこの機能は付いていません。
揚げものの調理をするときは必ず標準バーナーをお使いください。

天ぷら油過熱防止機能のはたらき

温度センサーをなべに密着させること
によりなべの熱が伝わります。

温度センサーの温度が約250℃になると自動的にガスを止めます。

天ぷら油過熱防止機能が働いたときの処置方法

- ①まず、操作つまみを戻して消火状態にする
 - ②再度使うときは油の温度が常温になるまでそのまま待つ
- * センサーが付いているも火を付けたままにしておくと油は調理に適さない高い温度になってしまいます。
- 揚げもの以外の調理の場合なべ底の形や調理によってはセンサーが高温になり、消火します。このようなときはハイカロリバーナーをお使いください。

温度センサーを正しく作動させるためにお守りください

お守りいただければ天ぷら油の過熱による発火を防止できなことがありません。

警告
揚げものときはお守りください

■底が平らで熱の伝わりやすい天ぷらなべを使う
(鉄・アルミのフライパンやなべ)
次のなべは注意が必要です。

ステンレスのフライパン、なべ
→熱の伝わりが遅いため油の量が少ないと発火のおそれがあります。
中華なべ、打ち出しなべ
→温度センサーとなべ底の間に隙間があるとセンサーが圧し、働きません。
底が平らなもの、凹凸が少ないものであれば使用できます。
土なべ、耐熱ガラスなべ
→熱の伝わりが悪くセンサーが正しく働かないため使用できません。
*煮ものなど水を使う調理の場合は上記のなべ全てで使用できます。
安定よくするためになべの重さは調理物を含んで300g以上が必要です。
但し、300g以上あっても片手なべなどで安定性が強く傾きやすいなべは使用しないでください。

■なべ底と温度センサーは密着させる
なべ底と温度センサーの間には隙間や異物がないようにしてください。

■揚げもの調理には200ml以上の油を入れる
調理中も常に200ml以上の油量を保ってください。

△注意

■センサーに強いショックやキズを与えない
センサーが故障する原因となります。

■センサーはいつも清潔にしておく
汚れるとセンサーが温度を感じできなくなりますが、汚れたときはやわらかい布で拭いてください。

(お手入れ方法18ページ参照)

取扱説明書	PA-A246A-LA <PA-31CS-9LA>	1	4	8	5	5	9	2	13071
	PA-A246A-RA <PA-31CS-9RA>	1	4	8	3	5	8	3	

温度センサー付バーナを使うとき

温度センサー付バーナ使用時のおねがい

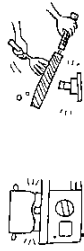
■揚げもの以外の調理について

温度センサー付バーナは揚げもの以外の調理にも使えますが、センサーが約250℃になると消火するしくみになっていますので、250℃以上の高温になる調理や、センサーと密着しないべを使ったりは、センサーの温度が上昇し、途中で消火する場合があります。このような場合はハイコロリーバーナをお使いください。

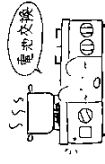
また、バーナからなべやフライパンをもち上げることを控えてください。このような場合はなべをのせて再び点火してください。

途中消火してしまいう調理の例

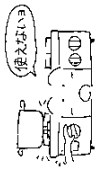
焼網を使う調理
炒りもの調理
ワインナー炒め



■電池交換ランプが点滅したら乾電池を交換する



センサー付バーナ使用中にランプが点滅したら...
⇒電池交換ページ参照



そのままにしておくと
センサー付バーナは使えなくなり、ます。点火操作後、手を離すと消火します。

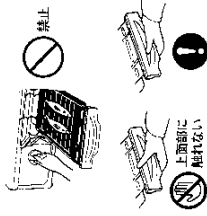
●電池が消耗してくるとセンサーが作動しなくなるので安全のため、操作つまみを回したとき点火しても、手を離すと消火するようになります。操作つまみを「点火」の位置で保持し続ければ点火しても、手を離すと消火するようになりますのでおやめください。

●電池が消耗してもハイコロリーバーナとグリルはそのまま使えます。
●電池交換ランプはセンサー付バーナ使用中のときのみの作動します。
電池がすっかり消耗してしまつたときはランプは点灯しません。

グリルの使いかた

△注意

- やけどに注意
- グリル使用中はグリル扉を開けたままにしない
- あふれた熱気により、トップアプレートやつまみか過熱され、やけどや変色・変形の原因になります。
- グリル使用中、使用直後にグリル扉を開けた状態でこんろ操作をしない
- 熱くなったグリル扉に手が触れてやけどをすおそれがあります。
- 高温のためやけどをすおそれがあります。
- グリル扉使用後、使用直後にグリル取っ手上面部(特に金属部)に触れない
- 異音発生の原因になります。
- 異音発生の原因になります。

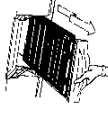


グリル水入れ皿の取り出しかた

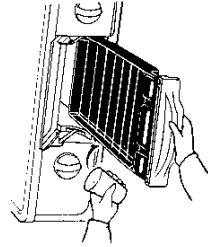
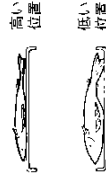
中の水がこぼれないように、ゆっくりと引き出す
取り出すときは、止まるところまで引き、少し持ち上げて引く

*最初から持ち上げた状態で引き出さないでください。
止まらずに勢いよく出でます。

*持ち運びするときは、取っ手をしっかりと持ってください。



リ準備



- ①グリル排気口カバーを取りはずす
- ②操作つまみが「止」の位置にあることを確かめる
- ③ガス栓を全開にする

はじめて使うとき

- ①グリル水入れ皿にカップ1杯(約200mℓ)の水を入れる
- ②約15分、空焼きする
- 扉内の油を焼ききるため煙や臭いが出て異常ではありません。

④焼網をセットする

●焼網は裏面で高さが変わります。焼物の種類、大きさによりに使い分けてください。
ポイント 焼網に食用油を塗っておくと、くっつきにくくなります。

⑤グリル水入れ皿にカップ1杯(約200mℓ)の水を入れる

●200mℓの水は約20分ではくなくなります。
●焼けて使用するときはそのつど水を足し、脂が飛び散るようなときは水を入れ替えてください。

⑥グリル水入れ皿を裏までしっかりと入れる

取扱説明書

PA-A246A-LA <PA-31CS-9LA>
PA-A246A-RA <PA-31CS-9RA>

1 4 8 5 5 3 2
1 4 8 3 5 3 3 1 30 8 1

PA-A246A-LA <PA-31CS-9LA>
PA-A246A-RA <PA-31CS-9RA>

1 4 8 5 5 3 2
1 4 8 3 5 3 3 13091

点検とお手入れ

点検とお手入れはガス栓を開け、機器が冷えてから行ってください。

- 機器を安全・快適にお使いいただくために、日常の点検とお手入れは必ず行ってください。
- 機器の故障や異常を見つけたときはお買い上げの販売店かお近くの東京ガスまでご連絡ください。
- 安全にお使いいただくために定期的に点検を受けられることをおすすめします。(有料)

点検のポイント

*点検は常時行ってください。

機器のまわりには可燃物等はありますか？

機器のまわりに可燃物や障害物がないようにしてください。(7ページ参照)

各部品は正しくセットされていますか？

正しくセットされているか確認してください。(6ページ参照)

ゴムの管は正しく接続されていますか？

赤い線までしっかり差し込み、ゴム管止めで止めてください。古くなるたびの割れしたり、差し込み口がゆるくなります。早めに取り替えてください。(8ページ参照)

乾電池は消耗していませんか？

温度センサー付バーナーの操作つまみを「点火」の位置まで回してください。電池交換ランプが点滅または点灯したときは新しい乾電池と交換してください。
*乾電池の寿命は通常の使いかたで約1年で、ただし、付属の乾電池は上掲出荷時に決められたもので、自己放電のため寿命が短くなっている場合があります。(6・13ページ参照)

汚れていませんか？

蒸気はれやグリル使用後などで機器が汚れているときはお手入れしてください。
温度センサーを押しみてスチームに上下に動くか確認してください。汚れが詰まっていると動きが悪くなり、温度センサーが正しく働かない場合があります。(17～19ページ参照)

ガス臭くありませんか？

ガス栓を開け、ゴムの接続部からガスの臭いがしないことを確かめてください。(20ページ参照)

グリルの使いかた

2 点火

■操作つまみの位置

(点火) (5ページ参照) (グリル)

*使用するバーナーの操作つまみを間違えないでください。

①操作つまみを「点火」の方向へいっぱい回し、そのまま数秒間保持する

②バーナー全体に点火したことを確認する

③3分ほど予熱してから材料をのせる

魚のヒレなどこげやすい部分は、厚めに油をふるか、アルミ箔で包んでおくことけかたが少なくなります。

3 火力調節

①材料に合わせて火力を調節する

●戻した面は朝よりも早い時間で焼き上がります。

おねがい
熱くなったグリル扉に水がかかるとガラスが割れるおそれがあります。気を付けてください。

4 消火

①操作つまみを「止」の位置まで戻す

●消火を確かめてください。

②ガス栓をしめる

③グリル水入れ皿のお手入れをする

おねがい
グリル水入れ皿を急に水で冷やさないでください。変形するおそれがあります。

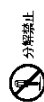
点検とお手入れ

お手入れのしかた

- お手入れの際は手袋をするなどして、ケガのないように気を付けてください。
- 機器や取のはずした部品は濡さないように気を付けてください。ケガや故障の原因になります。
- お手入れの際は各部温度正しくセットされているか確認をしてください。(6ページ参照)

△注意

お手入れが必要なところは絶対に分解しない
→故障や事故の原因になります。



お手入れには台所用中性洗剤をお使いください。

おねがい

印刷・包装面にはろがき粉・スチールワールなどは使わないでください。表面がキズ付き、中性洗剤以外の洗剤、シンナー・ベンジンなどあるいはレンジクリーナーなどのアルカリ性洗剤は塗薬がはかれるおそれがあります。

ごとく、しる受け皿、グリル排気口カバー

汚れたときは台所用中性洗剤で
水洗いし、水気をふき取る

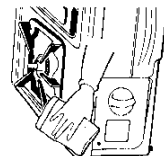
- *汚れたままにしておくと早くいたみます。
- お手入れの際は正しくセットしてください。(6ページ参照)



トッププレート

汚れたときは乾いた布で汚れをふき取る

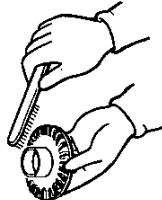
- 汚れの落ちにくいときは台所用中性洗剤でお手入れし、乾いた布で水気をふき取ってください。
- *汚れはそのつどお手入れしてください。そのままにしておくと、汚れが落ちにくくなります。



バーナキャップ

炎が不ぞろいになったときは
あなやみぞを金属ブラシや釘などで掃除する

- *目づまりをすると点火不良や不完全燃焼の原因になります。



△注意

水洗いしたときは、水気を十分ふき取る
→水滴がバーナに落ちて目づまりし、点火不良になることがあ
ります。

- お手入れの際は向き・開きのないようセットしてください。(6ページ参照)

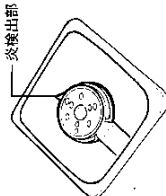
炎検出部

汚れや水分が付いたときはわわらかい布でふき取る

- *汚れや水分が付いていると点火しにくくなります。

おねがい

取り付け位置を動かしたり、キズを付けないでください。
故障の原因になります。



温度センサー

温度センサーが汚れたときはセンサーに片手を
添えて水気を固くしほった布で汚れをふき取る

- *汚れが付いているとセンサーの感度が悪くなります。

温度センサー

温度センサーは側面の汚れもふき取
ってください。
センサーを押し下げてみてスチームズに上
下に動くか確認してください。汚れ
が固まると動きが悪くなります。



おねがい

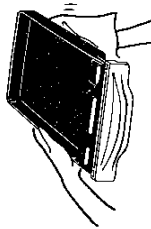
センサーにキズを付けないでください。故障の原因になります。

点検とお手入れ

グリル水入れ皿、焼網

お使いのたびに台所用中性洗剤で水洗いし、水気をふき取る

*グリル水入れ皿は乾かれないとこびりついた脂汚れが発火するおそれがあります。



グリル扉

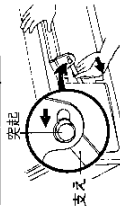
汚れたときはスポンジ、布などのやわらかいもので汚れをふき取る

▲注意

グリル扉内をお手入れされるときは、セラミックスが割れる原因になります。変形するとグリル扉や支えは変形させないようにしてください。変形するとグリル扉の閉まりや取り付けが悪くなる原因になります。

●取りはずし方

先にグリル水入れ皿を引き出しおいてください。



- 支え
- 支えを動かして突起を大きい穴に合わせ、内側にはずす
 - 他方も同じようにします。

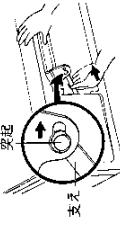


- グリル扉をいっぱい開く
- 強く引っ張る
- カンタンにはずれます。

●取り付け方



- 2つの軸の上をすべらせるようにして差し込む
- グリル扉が軸にはまりません。



- 支えを動かして突起を大きい穴からはめ込む
- 他方も同じようにします。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら、次のことをお調べください。下記の現象は当てはまらないとき、また処置をしてもなお異常があるときは、お買い上げの販売店かお近くの東京ガスまでご連絡ください。

現象	原因	処置方法	参照ページ
ガス栓の閉まが十分	ガス栓を全開にする	9-14	
乾電池が消耗している	新しい乾電池と交換する	6-13	
乾電池または電池ケースの取り付けが悪い	正しくセットする	6	
ゴム管の折れ曲がり、つぶれ	ゴム管の折れ曲がり直す	8	
ゴム管の接続不十分	ゴム管を確実に接続する	8	
バーナ炎口の水滴や汚れによる目づまり	バーナキャップのお手入れをする	18	
バーナキャップの浮き、傾き	正しくセットする	6	
点火しにくい	正しくセットする	6	
使用中に消火する	点火操作を繰り返す	9	
点火操作が不確切	操作つまみを戻す時間を長くする	9	
炎検出部が汚れたり汚れている	炎検出部のお手入れをする	18	
アルミ箔のしる受け皿を使っている	アルミ箔のしる受け皿を使わない	5	
温度センサーとなべ底が正しく接触していない	温度センサーとなべ底を正しく接触させる	12	
天ぷら油熱防し機能が働いた	機能が働いたときの処置方法を参照する	11	
電池交換ランプが点滅する	もうすぐ乾電池が消耗する	6-13	
黄色の炎で燃える	バーナ炎口の水滴や汚れによる目づまり	18	
炎が安定しない	バーナキャップの浮き、傾き	6	
異常な音をたてて燃える	しる受け皿のセット不良	6	
ガスのいやな臭いがする	ゴム管の接続不十分	8	
	ゴム管のひび割れ、穴あき	8	
	バーナキャップの浮き、傾き	6	

点検とお手入れ

故障

故障ではない場合	理由
点火・消火のときに「ポツ」という音がする	点火音・消火音で異常ではありません。
使用中「シャー」という音がする	ガスの通過音で異常ではありません。

取扱説明書

PA-A246A-LA <PA-31CS-9LA>
PA-A246A-RA <PA-31CS-9RA>

1 4 8
1 4 8

5 5 3 2
3 3 3 3

13111